

2 学期終業式

おはようございます。

今日で2学期が終わります。そして、今年も残すところあと1週間となりました。皆さんにとって、令和4年はどんな年でしたか？今日は今年を振り返りながら皆さんにメッセージを送りたいと思います。

1学期は多くの部活動で、大阪総体など、近畿大会や全国大会に繋がる試合が行われ、あっという間に夏休みに入った気がしています。うまくいった試合もありましたが、そうでなかったこともあったと思います。でも、3年生を始め、どの部員たちも輝いていました。そんな思いを3年生部員が短歌に込めました。「第3回さかい与謝野晶子 青春の短歌大会」で入選した歌を紹介します。

「グラウンドの真上の空の太陽が心も体も熱くしている」

2学期は、文化祭や体育祭といった大きな学校行事がありました。大塚生が自主的に考え行動した結果、コロナ禍で制限が続く中でも、工夫を凝らし素晴らしい文化祭・体育祭を実施することができました。ただ、残念なのは、皆さんの中に、これらの行事に不満とまでは言いませんが、何かしら思うところがあった人がいたように感じています。先日の人権学習で、染谷さんが仰っておられたように、「たった一言で1秒先の未来を変えることができる」のだから、自分の想いや意見をもっと出し合って、議論し、来年はさらに素晴らしい大塚祭を実現して欲しいです。

さて、私はこの11月に元陸上競技選手 400mHの為末大さんの講演を聞く機会がありました。為末さんは2000年400mHで日本学生新記録を樹立しシドニーオリンピック代表に選ばれました。

オリンピックでは、入賞が期待されたが、予選で先頭を走りながら終盤で強風にあおられて9台目を引っ掛けて転倒し、準決勝進出を逃がしました。この時、為末さんは、せっかくオリンピックに出場したのに、何の意味もなかった無駄なレースだったと、ふてくされたそうです。しかし、監督から、何故転倒したのか考えなさいと言われます。

400mハードルは10台のハードルを飛び越えながら400mを走るタイムを競う競技です。ハードル間の距離は35mです。試合当日は強烈な向かい風。当然風にあおられて1歩の歩幅が通常より短くなります。選手は走りながら、風などの状況を判断し、ハードル間の35mで1歩の歩幅を調節します。例えば50cmの歩幅を1歩で調節するのは難しいですが、10歩で調節するなら1歩5cmで可能です。為末さんは最初のオリンピックということもあり、緊張していて、そのことに気づいたのは、9台目のハードルの直前だったので間に合わず、結果的に引っ掛けて転倒してしまいました。

監督から、「すごいじゃないか。転倒した原因が分かったのだから、何の意味もない無駄なレースじゃなかったな」。と言われ、失敗から学ぶことの大切さに気づいたそうです。

その結果、翌年の世界陸上で日本新記録を樹立し、3位入賞、銅メダルを獲得しました。

為末さんの話からも分かるように、失敗は人間が成長するために欠かせない過程だと思います。失敗は必ず起こる。起こらなければ成長はない。失敗して、がっかりし、しょげて何もしなければ、また失敗を繰り返します。一旦、がっかりしてから、次に原因を考える。そこで新たな気づきが生まれます。失敗なくしてこの気づきもありません。どうしたら克服できるのか一生懸命考え、自分なりの答えを出すことで人として成長します。自分ができることより少しだけ上の目標を持つことが重要で、その結果、やる気が生まれ、ミスや失敗があってもそれを成長の糧にすることができるようになります。

「人生は敗者復活戦」（仙台育英高校野球部監督も言っています。）失敗や挫折のない人生なんかありません。限界が来たらやり方を変えて、早く次の目標を見つければ良い。皆さんは、この冬休み中に、令和5年の目標をひとつ見つけてください。

そして、冬休み中も感染予防に努め、健康に十分留意して、1月に元気に登校してきてください。

以上で2学期終業式のあいさつを終わります。